## 給貸與品諸手當支給簿様式

一、被服甲號「出場手當」

市町村消防組

| 給貸與年月日 | 給貸與品種別 | 現職及氏名 | 受領認印 |
|---|---|---|---|
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | 被服甲號 | | |

給貸與品。諸手當。ノ區別「種別」ニ依リ別口座トス



表紙

給貸與品
諸手當
出納簿

市町村消防組

## 給貸與品及諸手當出納簿

一、被服甲號「出場手當」

市町村消防組

| 出納年月日 | 種別 | 受高 | 拂高 | 殘高 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

被服甲號

給貸與品及諸手當ノ區別「種別」ニ依リ別口座トス





表紙

## 警備費豫算及支出簿

市町村消防組

## 警備費豫算及支出簿様式

大正　年度警備費豫算表　市町村消防組

| 項 | 節 | 内譯 | 金額 |
|---|---|---|---|
| 警備費 | 消防組費 | | |
| | 手當及辨當料 | 夜警手當 | |
| | | 出場手當 | |
| | 器具費 | 新調若ハ修繕費 | |
| | 建築修繕費 | 機械藏置場修繕 | |
| | 扶助料及手當 | 遺族扶助料 | |
| | 功賞 | 功勞賞金 | |

本表ハ警備費豫算及支出簿ノ上部ニ綴込コト

出場手當

### 出場手當

| 年月日 | 豫算額 | 支出額 | 殘額 | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| 大正　年　月　日 | 五二〇〇〇〇 | 〇〇〇 | 五二〇〇〇〇 | |
| 月　日 | | 二〇〇〇〇 | 五〇〇〇〇〇 | 何々ノ爲メ出動何某外何名ニ支拂 |

本表ハ「節內譯」毎ニ別口座トシ整理スルコト
備考ハ給貸與品諸手當支給簿ニ依リ記入ノコト

表紙

# 功勞證書「精勤」所持者名簿

市町村消防組

功勞證書所持者名簿樣式

功勞證書「精勤」所持者名簿　　市町村消防組

| 部名 | 就職年月日 | 授與年月日 | 現職及氏名 | 備考 |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| | | | | |

功勞「精勤」證書ヲ兼用スルトキハ口座ヲ別トナスヘシ
備考ハ「規律及技術ノ熟達ニ依リ」又ハ「拔群功勞ニ依リ」ト記入スルコト

表紙

# 夜警勤務日誌

市町村、消防組





夜警勤務日誌様式

| 項目 | 記入欄 |
|---|---|
| 勤務年月日時 | 大正　年　月　日自午后至午前　時 |
| 天候 | |
| 風位風力 | |
| 機械器具出動準備有無 | |
| 勤務記事 | |
| 監督巡視者日時認印 | |

| 勤務消防組員氏名 |
|---|
| |

表紙

# 竈及煙筒檢查簿

市町村消防組



## 竈及煙筒檢查表樣式

竈及煙筒檢查表　市町村消防組

| | |
|---|---|
| 警察官認印 | |
| 組頭若ハ役員認印 | |
| 臨檢消防組員認印 | |
| 竈ノ種類 | |
| 構造設備 | |
| 燃料 | |
| 煙筒構造 | |
| 灰置場 | |
| 修繕、改造其他注意シタル事項 | |
| 所有「管理」者住所氏名 | |
| 監檢檢查年月日 | |

カード式加除自由トス。

裏面

| 修繕改造其他注意シタル事項 | | 臨検検査年月日 | |
|---|---|---|---|
| 〃 | | 〃 | |
| 〃 | | 〃 | |
| 〃 | | 〃 | |
| 〃 | | 〃 | |

○

○





組員名票

| 組名 | 役名 | 現住地 | 職業 | 氏名 | 生年月日 | 任命年月日 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | |

# 給貸與品

| | 被服 | | | | | | | | | 器具 | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 品名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 使用年限 | 年 | 年 | 年 | 年 | 年 | 年 | 年 | 年 | 年 | 年 | 年 | 年 | 年 | 年 | 年 | 年 | 年 | 年 |
| 給貸與、返納、期滿年月日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 印 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |





# 經歴

| 年月日 | 記事 | 印 |
|---|---|---|
| | | |

| 功勞證書 | 精勤證書 | 褒賞 |
| --- | --- | --- |
| | | |





| 公傷及公病 |
| --- |
| |

## 檢閲點呼

| 年月日 | 記事 | 印 |
| --- | --- | --- |
| | | |





## 出動及夜警勤務

| 年月日 | 記事 | 印 |
| --- | --- | --- |
| | | |

## 三十一、消防關係法規

### 一、憲　法（明治二十二年二月十一日）（抄錄）

第一章　天　皇

第九條　天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ增進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス

第二章　臣民權利義務

第二十七條　日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サルヽコトナシ
公益ノ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

### 二、行政執行法（明治三十三年六月一日法律八十四號）（抄錄）

第四條　當該行政官廳ハ天災事變ニ際シ又ハ勅令ノ規定アル場合ニ於テ危害豫防若ハ衞生ノ爲必要ト認ムルトキハ土地物件ヲ使用處分シ又ハ其ノ使用ヲ制限スルコトヲ得

### 三、行政執行法施行令（明治三十三年六月一日勅令第二五三號）（抄錄）

第二條　生命身体若ハ財產ニ對シ危害切迫セリト認メ又ハ水陸ノ交通ニ危害ヲ及ホスノ虞アリト認メタルトキハ當該行政官廳ハ行政執行法第四條ニ依リ必要ナル措置ヲ爲スコトヲ得
左ノ各號ニ揭クル土地物件ニ關シテハ法令ノ規定ニ違反シ因テ危害ヲ生シ又ハ健康ヲ害スルノ虞アリト認メタルトキ亦同シ
一、崩壞又ハ之ヲ陷落セシムルノ虞アル場所
二、家屋其ノ他ノ工作物

三、船車其ノ他交通ノ用ニ供スル器具又ハ裝置
四、汽鑵汽機及附屬裝置
五、前各號ニ揭ケタルモノヽ外主務大臣ノ定メタル土地物件

四、行政警察規則（明治八年三月太政官達第二九號）（抄錄）

第三章　巡查勤務方ノ事

第二十五條　出火ノ節ハ巡查失火ノ合圖ヲナシ一般ニ知ラシム且燒失ニ罹ル家ハ其家人ヲ助ケ消防ノ事ニ勤ムヘシ消防人已ニ集マルニ至レハ勉テ亂雜及竊盜ヲ防ク事ニ注意スヘシ

第二十六條　同斷ノ節第一ニ其ノ人ヲ救ヒ出シ次ニ書類金貨等ヲ出スヘシ又官廳其他區戸長等ノ宅ハ文書第一ニ取出スヘシ

五、警視廳官制（大正二年六月十三日勅令第百四十九號）

第一條　警視廳ニ左ノ職員ヲ置ク

| | | |
|---|---|---|
| 警視總監 | | 勅任 |
| 官房主事 | 專任一人 | 奏任 |
| 警務部長 | | 奏任 |
| 保安部長 | | 奏任 |
| 刑事部長 | | 奏任 |
| 保安部長 | | 奏任 |
| 衞生部長 | | 奏任 |
| 消防部長 | | 奏任 |
| 理事官 | 專任一人 | 奏任 |

| | | |
|---|---|---|
| 警視 | 專任五十五人 | 奏任 |
| 消防司令 | 專任三人 | 奏任 |
| 技師 | 專任十二人 | 奏任 |
| 警部 | 專任百六十七人 | 判任 |
| 屬 | 專任二十人 | 判任 |
| 消防士 | 專任十四人 | 判任 |
| 消防機關士 | 專任八人 | 判任 |
| 工場監督官補 | 專任九人 | 判任 |
| 技手 | 專任三十八人 | 判任 |
| 通譯 | 專任一人 | 判任 |
| 警部補 | | 判任 |

警部補ノ定員ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ警視總監之ヲ定ム

第二條　大正九年勅令第二百六十二號第一條ノ規定ニ依リ俸給最低額ヨリ低キ俸給ヲ受クル技師及技手ニシテ他ノ職務ニ從事スル者ノ員數ハ主トシテ從事スル職務ノ職員ノ定員ノ内トシ其ノ他ノ定員ノ外トス

第三條　警視總監ハ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ東京府下ノ警察消防及特ニ内務大臣ノ指定スル衛生事務竝工場法施行ニ關スル事務ヲ管理シ各省ノ主務ニ關スル事務ニ付テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ク

第四條　警視總監ハ部内ノ行政事務ニ付其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ管内一般又ハ其ノ一部ニ廳令ヲ發スルコトヲ得

第四條ノ二　警視總監ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警備ノ爲兵備ヲ要スルトキハ東京衛戍總督又ハ師團長ニ

移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得

第五條　警視總監ハ其ノ主務ニ付テハ東京府下ノ郡長、島司、市長、區長及町村長ヲ指揮監督ス

第六條　警視總監ハ所部ノ官吏ヲ指揮監督シ奏任官ノ功過ハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ行フ

第七條　警視總監ハ廳中處務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第八條　警視總監事故アルトキハ警務部長其ノ職務ヲ代理ス

警視總監及警務部長共ニ事故アルトキハ内務大臣ニ於テ他ノ高等官ノ一人ヲシテ警視總監ノ職務ヲ代理セシム

警視總監ハ其ノ廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第九條　警視總監ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ警視署長又ハ警察分署長ニ委任スルコトヲ得



第十條　警視總監ハ警察署長又ハ警察分署長ノ處分又ハ命令ニシテ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ處分又ハ命令ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第十一條　警視廳ニ總監官房ヲ置キ左ノ事務ヲ掌ラシム

一　官吏ノ進退及身分ニ關スル事項
二　文書ノ往復及記錄編纂ニ關スル事項
三　官印廳印ノ管守ニ關スル事項
四　各部所成案ノ審査及判規ニ關スル事項
五　高等警察ニ關スル事項
六　會計ニ關スル事項

七　他ノ主管ニ屬セサル事項

第十二條　警視廳ニ部ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

警務部

一　警務ニ關スル事項

刑事部

一　刑事ニ關スル事項

保安部

一　建築警察、風俗警察及危險物取締等ニ關スル事項

二　營業警察及交通警察等ニ關スル事項

衛生部

一　衛生警察及衛生ニ關スル事項

消防部

一　水火消防ニ關スル事項

第十三條　官房主事ハ警視總監ノ命ヲ承ケ官房ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第十四條　部長ハ警視總監ノ命ヲ承ケ所部ノ事項ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

警務部長ハ行政警察事務ノ執行ニ關シ警視總監ノ命ヲ承ケ警察署長以下ヲ指揮監督ス

刑事部長ハ刑事警察事務ノ執行ニ關シ警視總監ノ命ヲ承ケ警察署長以下ヲ指揮監督ス

消防部長ハ消防事務ノ執行ニ關シ警視總監ノ命ヲ承ケ消防署長以下ヲ指揮監督ス

第十五條　官房主事又ハ部長事故アルトキハ警視總監ニ於テ其ノ廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム

第十六條　警視廳ニ監察官二人ヲ置キ警視ヲ以テ之ニ充ツ

監察官ハ警視總監ノ命ヲ承ケ警察事務ノ實況ヲ監察ス

第十六條ノ二　警視廳ニ工場監督官ヲ置キ理事官技師ヲ以テ之ニ充ツ

工場監督官ハ警視總監ノ命ヲ承ケ工場法施行ニ關スル事務ヲ掌ル

第十六條ノ三　警視廳ニ建築監督官ヲ置キ理事官又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

建築監督官ハ警視總監ノ命ヲ承ケ市街地建築物法施行ニ關スル事務ヲ掌ル

第十七條　警視及消防司令ハ監督官竝內務大臣ノ指定シタル警察署及消防署ノ署長タル者警察署長又ハ消防署長タル者ヲ除クノ外總監官房又ハ部ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第十八條　總監官房及各部ニ分課ヲ設クルコトヲ要スルトキハ警視總監之ヲ定メ內務大臣ニ報告スヘシ

第十九條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第二十條　警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及衞生事務ヲ分掌シ部下ノ警部補及巡查ヲ指揮監督ス

第二十一條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十二條　消防士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ消防事務ニ從事シ部下ノ消防手ヲ指揮監督ス

消防機關士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ消防機關ノ運用ニ從事ス

第二十三條　警視廳ニ工場監督官補ヲ置キ屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ

工場監督補官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工場法施行ニ關スル事務ニ從事ス

第二十三條ノ二　警視廳ニ建築監督官補ヲ置キ屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ

建築監督官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ市街地建築物法執行ニ關スル事務ニ從事ス

第二十四條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第二十五條　通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ飜譯通辯ニ從事ス

第二十六條　警部補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及衛生事務ニ從事シ部下ノ巡査ヲ指揮監督ス

第二十七條　東京府下ニ五十三警察署ヲ置ク其ノ管轄區域ハ內務大臣之ヲ定ム

警視總監必要アリト認ムルトキハ警察署ノ下ニ警察分署ヲ置クコトヲ得

第二十八條　警察署長ハ警視又ハ警部、警察分署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ但シ警察分署長ハ警部補ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

警察署長及警察分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第二十九條　東京市內及第三項ノ規定ニ依ル編入區域內ニ於ケル水火災ノ警戒防御ヲ掌ラシムル爲メ六消防署ヲ置ク

各消防署ノ管轄區域ハ警視總監之ヲ定ム
警視總監ハ土地ノ狀況ニ依リ內務大臣ノ認可ヲ受ケ東京市接近町村ノ全部又ハ一部ヲ消防署ノ管轄區域ニ編入スルコトヲ得
警視總監必要アリト認ムルトキハ消防署ノ下ニ消防分署ヲ置クコトヲ得
第二十九條ノ二　警視總監必要アリト認ムルトキハ第三條及前條第一項ノ規定ニ拘ラス消防署ヲシテ其ノ管轄區域外ノ水火災ノ警戒防禦ニ應援セシムルコトヲ得
第三十條　消防署長ハ消防司令又ハ消防士、消防分署長ハ消防士又ハ消防機關士ヲ以テ之ニ充ツ
消防署長及消防分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス
第三十一條　警視廳ニ巡査及消防手ヲ置ク判任官ノ待遇トス
巡査及消防手ニ關スル規程ハ內務大臣之ヲ定ム
第三十二條　警視廳ニ警察練習所及消防練習所ヲ置ク
警察練習所ハ警察ニ從事スル職員消防練習所ハ消防ニ從事スル職員ノ教習及訓練ニ關スル事項ヲ掌ル
第三十三條　警察練習所長ハ警務部長、消防練習所長ハ消防部長ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ其ノ主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## 六、特設消防署規程

（大正八年七月十七日勅令第三百五十號）

## 特設消防署規程

第一條　水火消防ニ關スル事務ニ從事セシムル爲大阪府、京都府、神奈川縣、兵庫縣及愛知縣ニ通シテ左ノ職員ヲ置ク

警視　專任一人　奏任

消防士　專任二十九人　判任

消防機關士　專任十四人　判任

警視ハ大阪府ニ限リ之ヲ置ク

消防士及消防機關士ノ各府縣ノ定員ハ内務大臣之ヲ定ム

第二條　大阪市、京都市、横濱市、神戸市及名古屋市竝第三項ノ規定ニ依ル編入區域内ニ於ケル水火災ノ警戒防御ヲ掌ラシムル爲メ大阪府ニ四消防署、京都府、神奈川縣、兵庫縣及愛知縣ニ各二消防署ヲ置ク

各消防署ノ管轄區域ハ知事之ヲ定ム

知事ハ土地ノ狀況ニ依リ内務大臣ノ認可ヲ受ケ第一項ノ市ノ接近町村ノ全部又ハ一部ヲ消防署ノ管轄區域ニ編入スルコトヲ得

知事必要ト認ムルトキハ消防署ノ下ニ消防分署ヲ置クコトヲ得

第三條　知事必要ト認ムルトキハ消防署ヲシテ其ノ管轄區域以外又ハ其ノ府縣外ノ水火災ノ警戒防御ニ應援セシムルコトヲ得

第四條　警察部長ハ知事ノ命令ヲ承ケ第一條ノ職員、消防手及消防署ヲ指揮監督ス

第五條　第一條ノ警視ハ警察部ニ屬シ上官ノ命ヲ承ケ消防事務ヲ掌リ其ノ執行ニ關シ上官ノ指揮ヲ承ケ消防士、消防機關士、消防手及消防員ヲ指揮監督ス

大阪府ヲ除クノ外第一條ニ揭クル府縣ニ在リテハ知事ハ警察部勤務ノ警視ヲシテ前項ノ規定ニ依ル職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第六條　消防士及消防機關士ハ警察部、消防署又ハ消防分署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ消防事務ニ從事ス

消防士ハ上官ノ指揮ヲ受ケ部下ノ消防手及消防員ヲ指揮監督ス

第七條　消防署長ハ消防士、消防分署長ハ消防士又ハ消防機關士ヲ以テ之ニ充ツ

消防署長及消防分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ主管事務ヲ掌リ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第八條　第一條ニ揭クル府縣ニ消防手ヲ置ク判任官ノ待遇トス

消防手ハ警察部、消防署又ハ消防分署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ消防事務ニ從事ス

消防手ニ關スル規定ハ內務大臣之ヲ定ム

第九條　第一條ニ揭クル府縣ニ消防員ヲ置クコトヲ得

消防員ハ消防署又ハ消防分署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ消防事務ニ從事ス

消防員ニ關スル規定ハ知事之ヲ定ム

第十條　本令ニ依リ消防ニ關スル經費ハ其ノ國庫ニ屬スルモ

モノヲ除クノ外府縣警察費ノ支辨トス

附　則

本令ハ大正八年七月二十日ヨリ之ヲ施行ス但シ神奈川縣ニ在リテハ同年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

大阪市消防規程ハ之ヲ廢止ス

大阪市消防規程ニ依ル警視、消防士及消防機關士ニシテ本令施行ノ際現ニ其ノ職ニ在ル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ同官等俸給ヲ以テ各當該官ニ任セラレタルモノトス

## 七、消防組規則（明治二十七年二月九日勅令第十五號）

第一條　府縣知事ハ職權又ハ市町ノ申請ニ依リ火災警戒防禦ノ爲メ消防組ヲ設置スルコトヲ得

第二條　消防組ノ設置區域ハ市町村ノ區域ニ依ルヘシ

但土地ノ狀況ニ依リ市町村內ニ於テ適宜區域ヲ定ムルコトヲ得

第三條　消防組ハ組頭一人小頭若干人及消防手若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

組頭及小頭ハ警部長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル警察署長之ヲ命免ス

消防手ハ警察署長之ヲ命免ス

第四條　組頭ハ警察官ノ命ヲ承ケ部下ノ指揮取締ニ任シ庶務ニ從事ス

小頭ハ組頭ヲ助ケ組頭差支アルトキハ之ニ代ハルモノトス

第五條　府縣知事ハ市町村會ニ諮問シ消防組ヲ數部ニ分ツコトヲ得

第六條　消防組ハ府縣知事ニ於テ指定シタル警察署長之ヲ指揮監督ス

消防組ハ警察官ノ指揮ニ從ヒ進退スヘシ但災害ニ際シ警察官ノ臨場スル迄町村長又ハ組頭若ハ小頭之レカ指揮ヲ爲スコトヲ得

第七條　消防組ハ其區域外ノ火災ト雖モ警察署長ノ指揮ニ從ヒ其ノ警防ニ應援スヘシ

危急ノ場合ニ於テ警察署長前項ノ指揮ヲ爲スノ暇ナキトキハ他ノ警察官署長ニ代テ其ノ指揮ヲ爲スコトヲ得

第八條　警部長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケテ其ノ地方全体ノ消防組ヲ指揮監督ス

消防組ハ火災警防ノ爲メニアラザレバ集會若クハ運動スルコトヲ得ズ

但警部長若クハ其ノ委任ヲ受ケタル警察署長ニ於テ儀式訓練及他ノ災害ノ爲メニ集合運動ヲ命シタル場合ハ此ノ限ニアラス

第九條　消防組ノ服務紀律及懲戒ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第十條　消防組ノ擧動治安ニ妨害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ之ヲ解クコトヲ得

第十一條　消防組員ノ手當並ニ被服等ハ市町村會ニ諮問シ府縣知事之ヲ定ム

第十二條　消防組ニ必要ナル器具及建物ハ府縣知事市町村會ニ諮問シ之ヲ定ム

前項ノ器具及建物ハ市町村ニ於テ之ヲ設備スヘシ

第十三條　消防組ニ關スル費用ハ其市町村ノ負擔トス

第十四條　削除

第十五條　削除

第十六條　此ノ規則ヲ施行スル爲メニ必要ナル細則ハ府縣知事之ヲ定ム

第十六條ノ二　府縣知事ハ地方ノ狀況ニ依リ此ノ規則ノ全部若クハ一部ヲ準用シ水災ノ警戒防禦ノ爲メ水防組ヲ設ケ又ハ消防組ヲシテ水災警防ノ事務ヲ兼ネシムルコトヲ得

第十七條　此ノ規則ハ東京市、大阪市並沖繩縣ノ郡及島嶼ニ之ヲ適用セス

第七條ノ規定ハ東京市及大阪市ニ於ケル消防組ニ之ヲ準用ス

第十八條　北海道ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ北海道廳長官之ヲ行フ

東京府郡部ニ於テハ府縣知事ノ職務ハ警視總監之ヲ行ヒ警部長ノ職務ハ警察署長之ヲ行フ

第十九條　此ノ規則中市ニ關スル規定ハ市町村組合並北海道及沖繩縣ノ區ニ、町村ニ關スル規定ハ町村組合ニ之ヲ準用ス

## 八、消防組點檢規則

（明治三十三年五月内務省訓令第十六號）　廳府縣（東京府ヲ除ク）

改正　大正二年四月訓令第五號

消防組點檢規則左ノ通之ヲ定ム

## 消防組點檢規則

第一條　消防組ノ點檢ハ人員、服裝、姿勢、動作及機械器具其ノ他携帶品ノ操法、分解構成、保存ノ適否ヲ檢査スルモノトス

第二條　點檢ヲ行フトキハ所屬警察署長警察分署長又ハ其ノ代理者ヲ點檢官トシ組頭又ハ小頭ヲ指揮者トス但シ所屬警察署長警察分署長又ハ其ノ代理者在ラサルトキハ組頭ヲ點檢者トシ小頭ヲ指揮者トス

第三條　消防組員ノ集合整頓ノ方法ハ巡査點檢規則ヲ準用ス

第四條　指揮者タラサル小頭ハ前列右翼ニ若シ餘員アルトキハ同左翼ニ列シ尙ホ餘員アルトキハ後列ノ中央二歩ノ距離ニ於テ押伍ト爲ルヘシ

第五條　點檢ノ際列員ハ一定ノ服裝ヲ爲シ手袋アルトキハ之ヲ著用スヘシ

但シ頭巾ヲ携フルトキハ其ノ紐ヲ頭ニ掛ケ之ヲ背部ニ負フヘシ

第六條　點檢ハ消防組當番員出務ノ際、現場引上ノ際及演習ノ際之ヲ行フモノトス

當番員出務ノ際ニ於ケル點檢ニ付テハ機械ノ分解構成ニ關スル檢査、現場引上ノ際ニ在テハ動作及機械器具携帶品ノ操法、分解構成、保存ノ檢査ヲ省略スルモノトス但シ現場引上ノ際ニハ機械器具被服其ノ他携帶品破損ノ有無ヲ特ニ嚴重檢査スヘシ

第七條　機械、器具ニシテ使用シタルモノハ洗滌シ後修繕シ

タルモノハ竣工ノ後警察官ニ於テ點檢スヘシ其ノ在ラサルトキハ組頭又ハ小頭ニ於テ點檢スヘシ

第八條　喞筒其ノ他ノ機械ニシテ組立タルモノハ毎年行フヘキ演習ノ内其ノ一回ニ限リ之ヲ分解シ内部ノ檢査ヲ行フモノトス

## 三十二、消防組後援團規程「靜岡縣」

### （イ）土肥村青年消防隊規約

第一條　本消防隊ハ本村消防組ニ屬シ土肥村青年消防隊ト稱ス

第二條　本消防隊ハ村内一般ノ青年ヲシテ出火ヲ豫防シ火災ヲ未然ニ防ギ有事ニ際シ消防組ノ補助ヲナシ萬一消防組不在ノ場合ニハ自ラ之ニ代リ應急ノ手段ヲ講ゼシムルヲ目的トス

第三條　本消防隊ハ拾六歳以上ノ青年ヲ以テ組織シ各部共貳拾名以内トス

第四條　各區ニ於ケル消防隊ハ其區ノ消防組各部ニ屬ス

第五條　各消防隊出火出場ノ場合ハ各部所屬ノ役員ノ指揮ヲ受クルモノトス

第六條　本消防隊ハ消防組役員ノ命ニ依リ消防演習ヲ施行ス

### （ロ）富塚村少年消防隊規程

第一條　本隊ハ濱名郡富塚村尋常高等小學校第六學年以上ヲ以テ組織シ富塚少年消防隊ト稱ス

第二條　本隊員ハ尋常科第六學年以上ノ男兒ヲ以テス

一、但シ左ニ掲グル各項ノ一ニ該當スル者ハ本隊ニ加ヘス

一、身体脆弱ニシテ學校醫ノ不適當ト認メタルモノ

一、保護者ヨリ特別ノ事情ヲ以テ不加ヲ願ヒ出タルモノ

一、其他學校ヨリ不適當ト認メタルモノ

第三條　本隊員ニシテ左ノ各項ノ一ニ該當スルトキハ當然其ノ職ヲ失フモノトス

一、本校ヲ卒業シタルトキ

一、他校ニ轉校シタルトキ

一、全治ノ見込ナキ疾病ニ罹リタルトキ

一、其他前條ニ抵觸ヲ成セシトキ

第四條　本隊ハ別ニ人員ヲ限定セズ左ノ役員ヲ設ク

總裁　一名　副總裁　一名

隊長　一名　小頭　（隊員十名毎ニ一名）

第五條　本隊役員選出方次ノ如シ

一、總裁ハ本小學校長之ニ任ズ

一、副總裁ハ總裁ノ指名ニ依リ本校訓導中ヨリ其ノ任ニ當ル

一、隊長小頭ニ副總裁之ヲ選定シテ總裁ノ許可ヲ得ルモノトス

但シ小頭ハ時宜ニヨリ必要ト認メタル時ハ之ヲ增減スルコトアルベシ

第六條　役員ノ任期ハ壹ヶ年間トス

第七條　本隊員ハ共同一致ヲ旨トシ規律敏活ヲ尊ビ抵抗違背

ノ所爲アルベカラス

第八條　消防機械器具一切ノ保管ハ各員責任ヲ以テ保存シ時々點檢ヲ行ヒ使用後ハ直チニ掃除シ副總裁ノ檢閲ヲ受クベシ

第九條　本消防隊ハ火災豫防ヲ任務トスレドモ萬一左ノ項目ノ一ニ該當スル火災アリテ總裁ニ於テ本隊出動ノ必要アリト認メタルトキハ副總裁引率ノ下ニ繰出スコトアルベシ

一、本校及ハ本校附近ニ非常事變ノ生ジタルトキ

一、晝間通學區域內ニ火災アリテ消防組ヨリ援助ヲ受ケタルトキ

第十條　定規演習ハ毎年一月、三月、十月ノ三回ニテ定期練習ハ毎週土曜日放課後トス

第十一條　以上各條目ノ外本村消防組服務規約ヲ遵守スベシ

（ハ）內浦村婦人警備隊規定

名　稱

第一條　本警備隊ハ本村消防組ニ屬シ內浦婦人警備隊ト稱ス

目　的

第二條　本警備隊ハ村內一般ノ婦人ヲシテ出火ヲ豫防シ大事ヲ未然ニ防ギ有事ニ際シ男子不在ノ場合婦人自ラ之ニ代リ應急ノ手段ヲ講ゼシムルヲ以テ目的トス

第三條　本警備隊ハ十六歲以上ノ婦人ヲ以テ組織ス

第四條　各區ニ於ケル警備隊ハ其ノ區ノ消防組各部ニ屬ス

第五條　各部警備隊員中ニ總代一名ヲ置キ消防組役員ノ指揮ニ從ヒ隊務ヲ處理ス

### 方　法

第六條　各方部ニ輕便ポンプ數臺ヲ備ヘ有事ニ備フ

第七條　本警備隊ハ消防組役員ノ命ニヨリ時々消火演習ヲ行フ

## (二)　義勇警察隊々則

第一條　本隊ハ三島義勇警察隊ト稱ス

第二條　本隊ハ自主的精神ニ因リ警察官ト協力シ町内ノ安寧ヲ保持シ警察事故ノ發生ヲ防キ災害又ハ非常事變等ノ際救護及警戒ニ從事スルヲ以テ目的トス

第三條　本隊ハ三島町在住者ヲ以テ之ヲ組織ス

第四條　本隊ノ事務所ハ當分三島警察署内ニ置ク

第五條　本隊ハ左記事項發生シ又ハ發生ノ虞アルトキハ警察官吏ヨリ應援ノ要求アリタル場合ハ直ニ出動スルモノトス

但警察官吏ト連聯ヲ保チ其ノ職務執行ニ支障ヲ生セシムルコトアルヘカラス

一、風水害ノタメ公衆ニ危害ヲ生シ又ハ生セムトスル虞アルトキ

二、騷擾其他ノ事變アリタルトキ

三、盜難警戒又ハ犯人逮捕上必要ナルトキ

四、道路缺損ノ爲メ交通ニ危險アリテ應急修理ヲ必要トスルトキ

五、其他公衆ニ對スル急迫ノ事件發生シ救護ヲ必要トスルトキ

第六條　本隊ニ左ノ役員ヲ置ク

隊長　一名
副隊長　一名
班長　五名

第七條　隊長ハ副隊長以下ノ隊員ヲ指揮監督シ副隊長ハ隊長ヲ補佐シ隊長事故アルトキハ之ヲ代理シ班長ハ隊長及副隊長ノ指揮ヲ受ケ班員ヲ監督ス

第八條　本隊ニ顧問若干名ヲ置ク

第九條　隊員ノ命免黜陟ハ隊長之ヲ専行ス

第十條　隊員ハ常ニ紀律嚴肅品行方正ニシテ名譽ヲ尚ヒ賤劣貪汚ノ行爲アルヘカラス

第十一條　隊員ニ對シテハ必要ニ應シ時々法令ノ講習ヲ爲ス

第十二條　隊員ニシテ紀律ヲ紊シ若クハ素行修ラスシテ本隊ノ體面ヲ汚損スルカ如キ行爲アリタルトキハ之ヲ除名スルコトアルヘシ

消防實務要覽終

大正十一年十二月廿五日印刷
大正十一年十二月廿八日發行

（非賣品）

著者兼發行者　靜岡縣安倍郡安東村北安東五八　千々輪　益

印刷者　靜岡市馬場町百二十八ノ二　深尾新松

印刷所　靜岡市馬場町百二十八ノ二　深尾活版所

不許複製

發行所

現代消防機界の覇王

# 鈴木式バルプレス喞筒

新案特許
第四七九五〇號
第五三九一一號

標語
一本のマッチよく大火を起し
一臺の「バルプレス」よく大火を鎭む

俳句
ポンプなら一も二もなく鈴木式

大阪市西區本田二番町
**鈴木製作所**
電話長西四三九二番、櫻川一四八番
振替大阪九六五一番
電略（ス）ハ又（スキ）

大正十一年十二月廿五日印刷
大正十一年十二月廿八日發行

【非賣品】

消防用瓦斯倫手働喞筒製作販賣
並ニ附屬品一式（特ニ正式ラッパアリ）

東京市神田區猿樂町貳丁目八番地

慶應元年創業

合資會社 服部商會

斯界ノ重鎭（岡崎屋喞筒製造所併合）（元本所横網町二丁目三番地所在）

電話神田二七七八番
振替東京七二〇七番

工場 市外吾嬬町請地千百〇四番地（曳舟電車停留所側）

形錄申込次第無代進呈



長尾式水槽付 消火喞筒

無藥安全
即時應急
噴霧兼用
水勢强烈

●本器は全部精選したる銅と鑛鉛との材料にて製作せるが故に堅牢にして體裁も高尙なり
●貯水装置なるを以て把手さへ上下すれば即時應急の用をなし、且つ無藥なるに依り藥品詰替の手數も腐蝕破裂の憂へもなく隨つて時々點檢を要せざる現代理想的消火器の大權威なり
●撒水及噴霧用としては本器獨特の機能を有し現に平和紀念東京博覽會に於いて名譽の入選を得たり

防火噴霧撒水兼用長尾式兩用喞筒
最新自動式消火喞筒
水槽付喞筒
藥品用廻轉式消火器
各種輕便喞筒及噴霧器
火防用喞筒附屬附品一式

東京市神田區松富町四番地

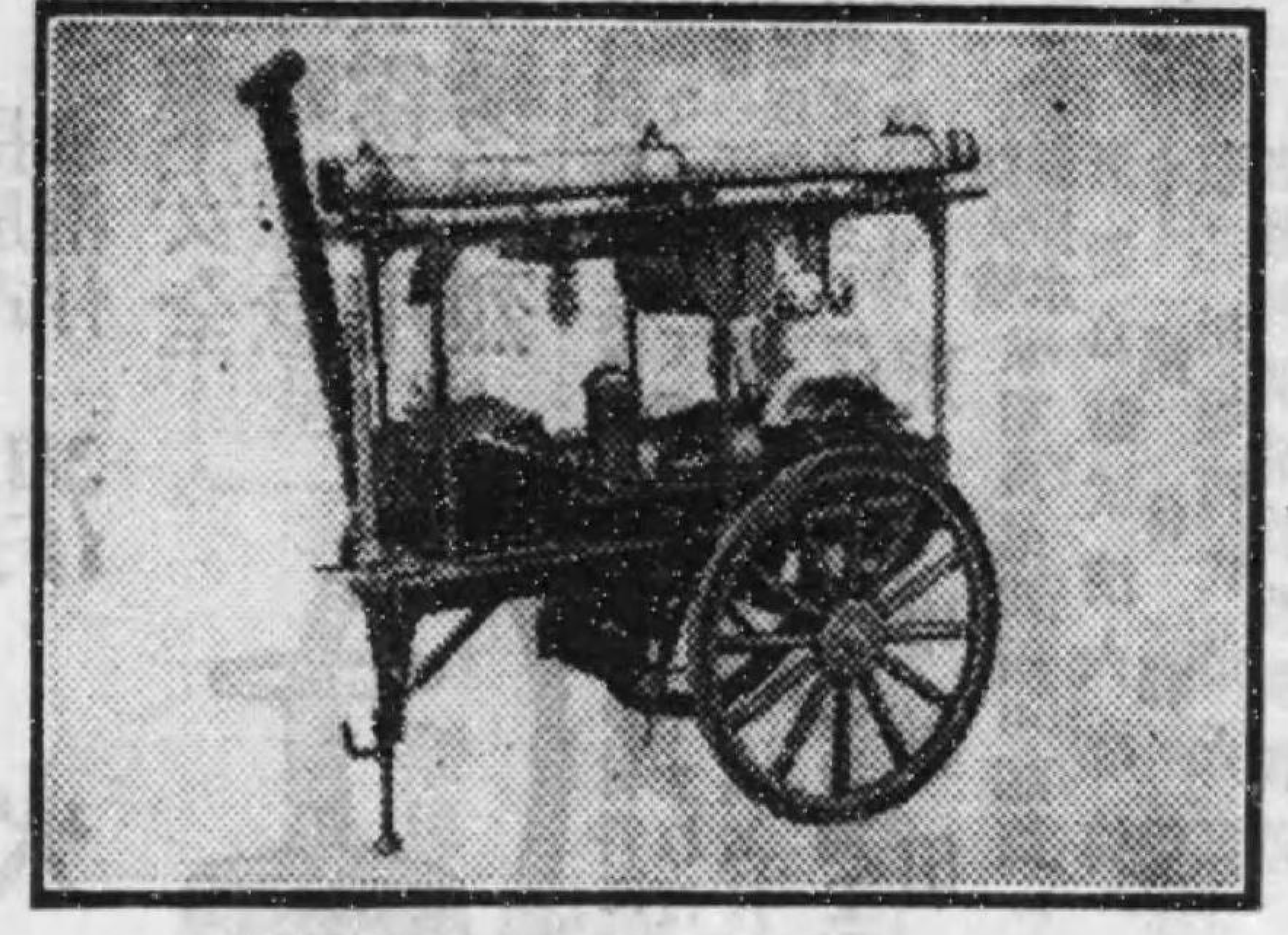
長尾工業所

營業所
工場

電話下谷特長一一一番
振替東京五六九七七番
電話本所長三五六〇番

特許

## 小澤式瓦斯倫喞筒



## 國産瓦斯倫喞筒大王

各種製作販賣

腕用ポンプ
瓦斯倫ポンプ
自動車ポンプ

特ニ八馬力瓦斯倫ポンプニ於テハ腕用ポンプニ等シキ價格ニシテ如何ナル小村ニテモ自活用自在ニシテ且ツ放水優秀ナリ

名古屋市中區古渡町六丁目

合資會社

## 小澤鐵工所

電長南六三七

---

# 理想的水管接手の發明

特許專賣36546號

## 町野式水管接手

水管接手接合ノ圖

筒先接手

根元用接手（媒介接手）

消防は特に迅速機敏を貴ぶ今や人力喞筒の時代は去りガソリン喞筒の要求せらるゝ時に當りホースの接手のみは舊來の螺式を使用しつゝあるを慨し積年苦心發明せられたるは本器即ち町野式水管接手にして從來の如く多數の人手とスパナ等を使用する必要毫もなく單獨微力を以て簡單に接續し瞬間に幾多の水管を完全に連接し且つ絶對に脱離の虞なし、眞に理想的接手にして宮内省初め各官衙、市町村消防組、水道部、會社工場等より陸續御買上の光榮を得斯界の權威なり

特許專賣36547號

## 町野式水道連結器

本器は家庭の水道口に連結し婦女子と雖も容易に使用し得るを以て家庭用消火機として又撒水、送水等に利用し頗る便利なる家庭用常備器なり

東京市京橋區疊町八番地

製造發賣元 **ヂヨイント商會**

電話長京橋二五〇一番
振替口座二四六二一番

## 世界的發明

消火 防火 二大偉力

室内用トシテ完全ナリ

如何ナル猛火ガ發生シテモ四疊半一室ヘ四合ヲ注グバ天井四壁火ヲ一時ニ消スト同時ニ一旦瓦斯体トナル時ハ何處ヘデモ行キマスカラ天井裏ニ火ガ廻タ時デモ下ノ火ト同時ニ鎭火致シマス

消火器具不用子供ニモ使用ガ出來マス

警視廳認可・縣下有効證明

專賣 **國益式**（瓦斯發生）**消火液**

防火用トシテ臺所、湯殿火ヲ取扱フ危險アル場所及漏電ノ虞レアル場所火扱者ノ衣服等ニ塗布スレバ燃エ移ル事ハアリマセン

人畜無害

保存十五年以上

一度使用後再ビ口栓ヲシテ置ケバ多年變質ナシ

類似品有リ國益式ニ注意

定價 四合瓶入 金參圓也

國益社化學工業所 東京淺草田中町五三

東京國益社支部 東海道島田驛前

---

品質優良價格低廉

◎優良ナル消防組ハ優良ナルホースヲ選擇ス

◇我國ニ於テホースヲ專業ニ製造スル會社ハ唯一弊社アルノミ

## 日之出印 消防用布ホース

水壓力四百ポンド保證

◇多年研究ノ結果製品優良廉價ノ實ヲ擧ゲ普ク江湖ノ稱讃ヲ博スルニ至レリ（見本進呈）

◎ホースノ良否如何ハ消防能率ノ增減ヲ支配ス

警視廳御用。海陸軍省御用

製造元

日本ホース株式會社

# 當社製消防用ポンプノ特長

一、發動機ハ高級自動給油式ナル事

二、「ポンプ」ハ最モ安全ナル高壓タービン式ナル事（舊式ナル攪拌式ニアラズ）

三、各製品ニ對シテハ拾ケ年間ノ責任保證ヲ附スル事

營業課目
- 拾馬力ヨリ參拾貳馬力迄各種
- 各種自動車ポンプ
- 腕用ポンプ各種
- 消防用器具各種

非是
- 御上京ノ節ハ御立寄ノ上製作現場御高覽被下度如何ニ親切ニシテ確實ナルカ御安心ノ出來ルコト、存候（市電綿糸堀ヨリ約貳丁）

◆御申越次第カタロク定價表送呈可仕候

資本金壹百萬圓

東京府大島町貳丁目五拾番地

日本消防機製造株式會社

電話本所 長四二八番 長一五九二番

靜岡縣廳

# 前庭ニ於ケル消火試驗ノ實況

ミカド消火液

大正十一年十月二十六日靜岡縣廳廣庭ニ於テ試驗ノ結果室内防火用トシテ相當効果アルモノト認ム

大正十一年十月二十七日

靜岡縣保安課長

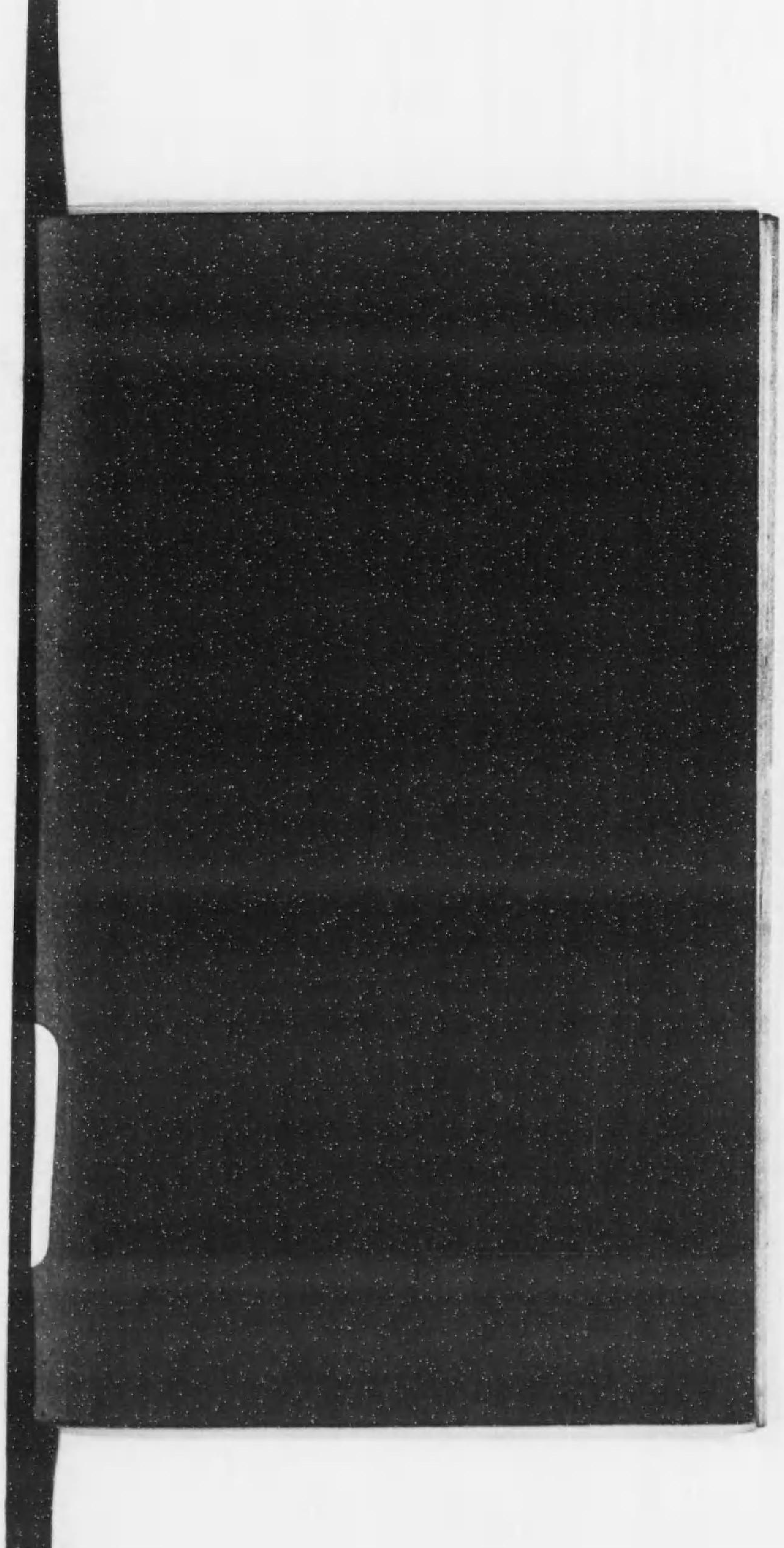
東京市京橋區西紺屋町拾五番地

本舗

電話京橋六〇四八番

振替東京五〇三八八番

291

279

終